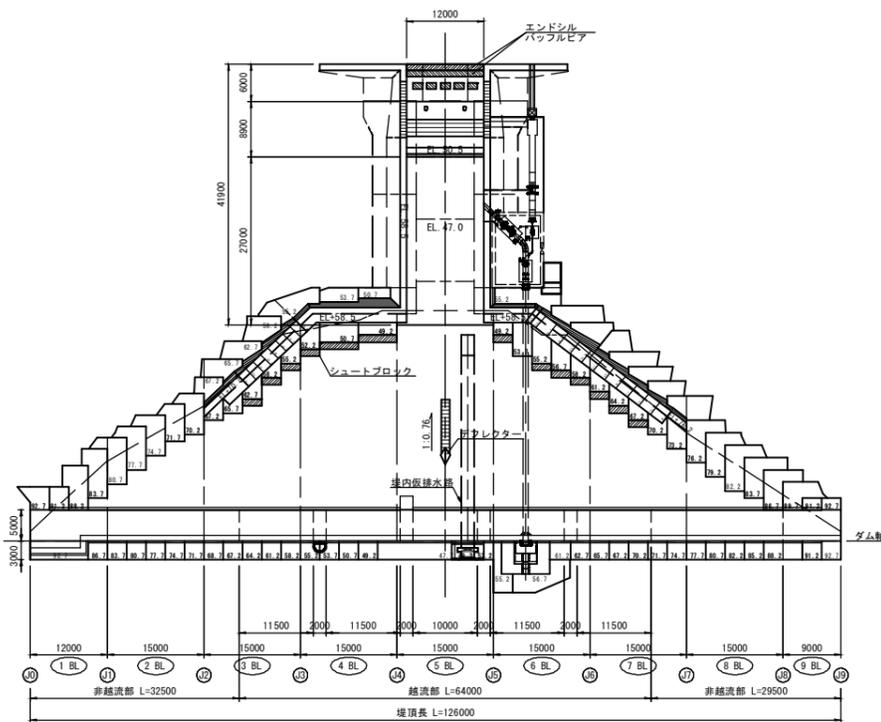


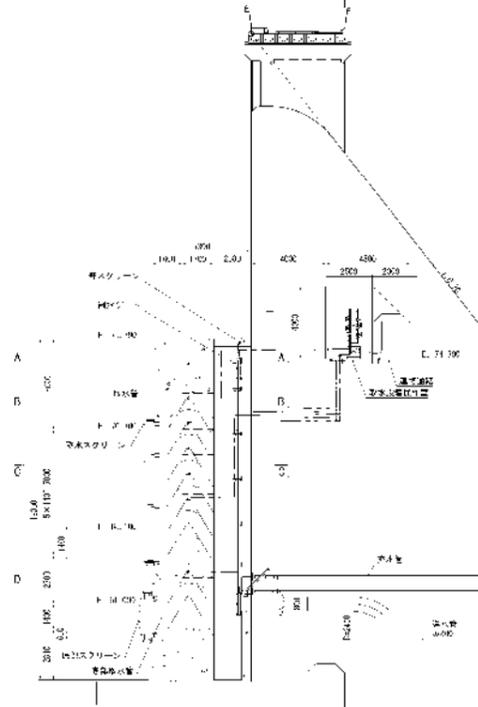
ダム概要図

波積ダム

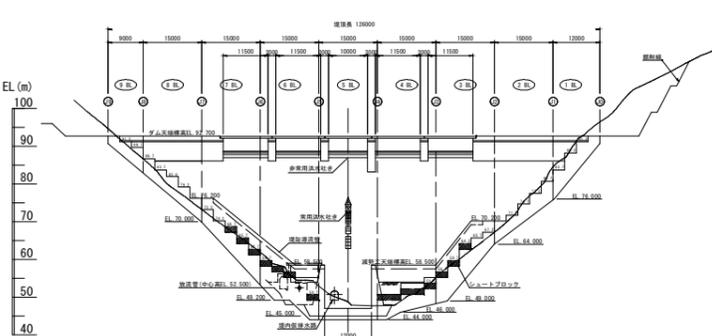
ダム平面図



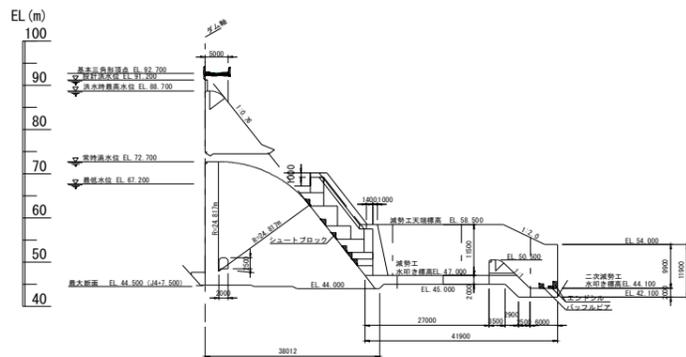
取水塔構造図(6BL)



下流面図



標準断面図



START



H30.4



R1.8



R2.4



R2.9



R3.4



R4.4



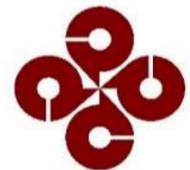
R4.8



R5.9



R5.12



島根県浜田河川総合開発事務所

〒697-0041

島根県浜田市片庭町254 浜田合同庁舎 5階

TEL 0855-29-5760 (代表) FAX 0855-29-5772

E-mail: hamadakasen@pref.shimane.lg.jp

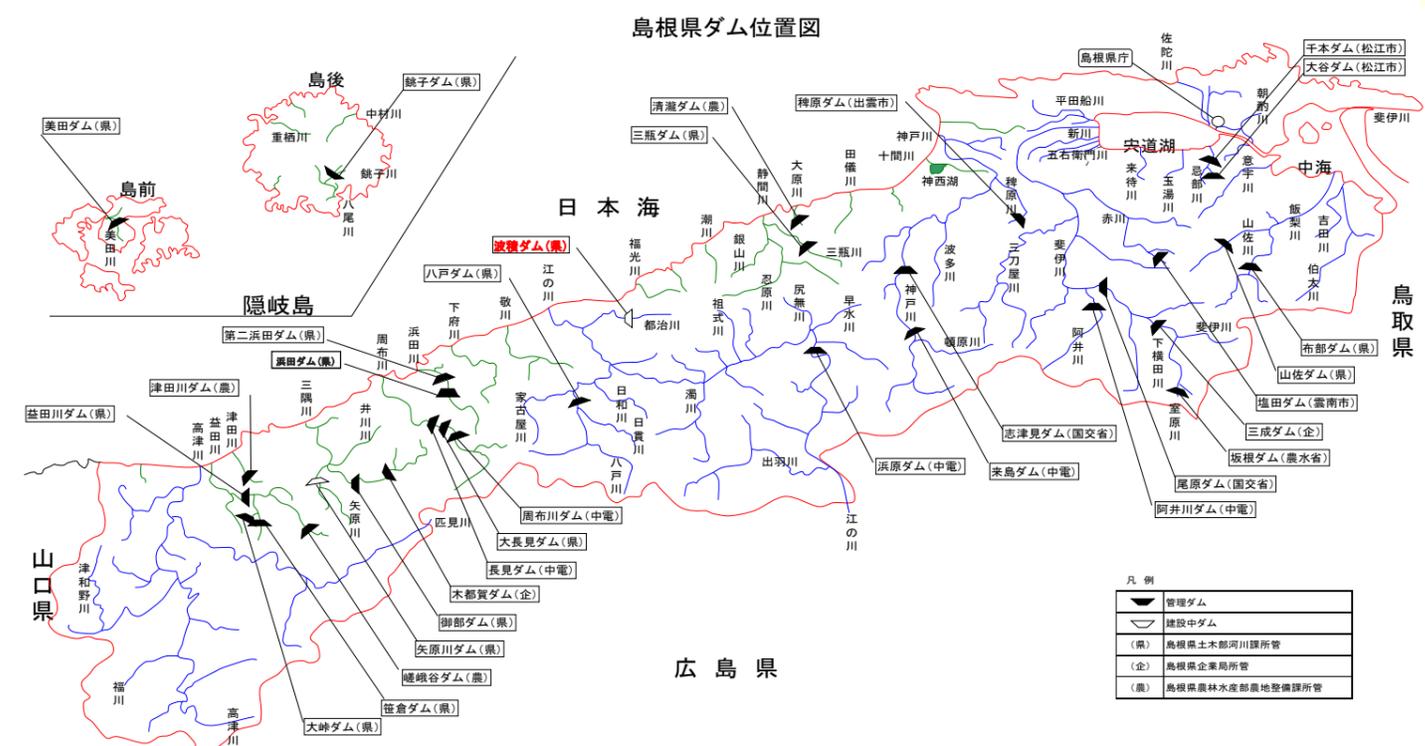
※施工状況写真を定期的に追加していきます！！

写真提供…フクダ・原工務所JV(H30.4・H31.1) 安藤ハザマ・今岡工業・原工務所JV(R1.5以降)

島根県浜田河川総合開発事務所
 ≪波積ダム建設課・ダム道路課≫



浜田河川総合開発事務所では、現在2事業中1ダムを建設中です！！



島根県内には、国、県、市、企業局、中電の管理ダムが30ダムあり
その内県管理ダムは18ダムあります。

トピックス

しけんたんすい
試験湛水を開始しました



R5.10.4
貯水位 EL49.45m
試験湛水8日目

令和5年10月4日に、堤内仮排水路呑口にゲートを下ろし、試験湛水を開始しました。
波積ダムでは約半年かけて洪水時最高水位まで水を貯め、その後、水位を下げていきます。
この試験湛水で安全性が確認できれば、波積ダムは完成となります。

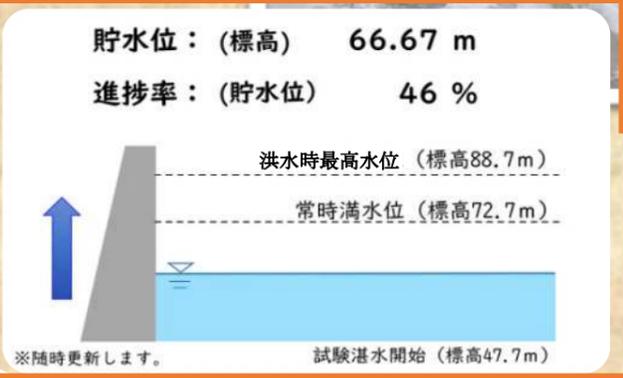
しけんたんすい
試験湛水とは？

ダムの堤体、基礎地盤及び貯水池周辺地山の安全性を確認するとともに、取水放流設備、管理設備等の機能確認を目的とした試験です。



R5.12.18
貯水位 EL66.67m
試験湛水75日目

しけんたんすい
試験湛水進捗状況

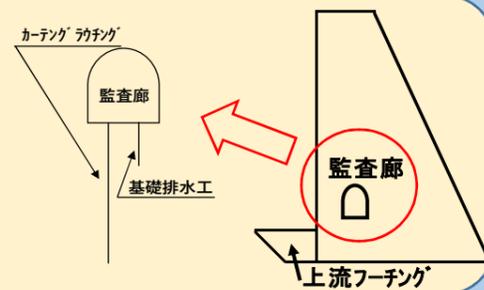


波積ダムの試験湛水進捗状況については、島根県河川課ホームページに掲載しています。また、波積ダムの現在の状況は、島根県水防情報システム(CCTVカメラ)で確認できます。

波積ダムの特徴

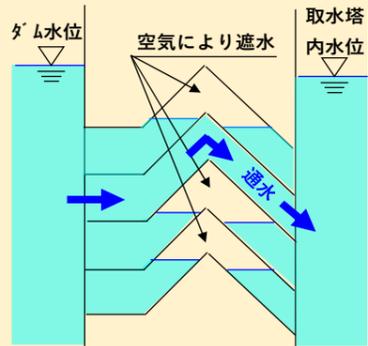
point 1

【カーテングラウチング】 監査廊内から施工
従来のカーテングラウチングは上流側フーチングから施工していましたが、本ダムでは監査廊（堤体内部）から施工する方法を採用しています。これは、試験湛水時に漏水があった場合に追加施工が容易となることから、リスクマネジメントとしても有効です。



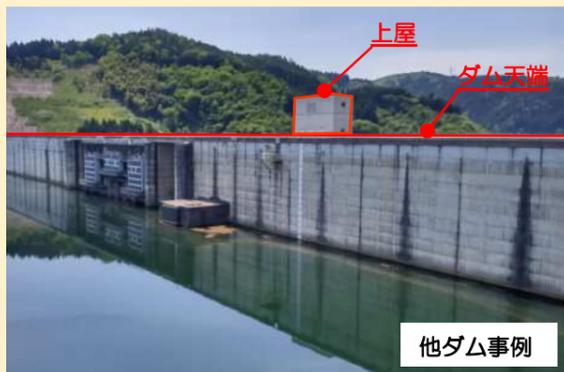
point 2

【取水設備】連続サイフォン式採用
国交省施工の志津見ダムで日本初として採用された、連続サイフォン式取水設備を波積ダムでも採用しています。これは、空気によって遮水を行うタイプの選択取水設備となっており、従来のゲートや開閉装置は不要となり、連続的に配置された逆V字管の頂部に空気を出し入れすることにより、放流・止水を行います。



point 3

【景観に配慮したダム天端計画】ダム天端上部に上屋を設置しない
ダム本体の天端では、取水塔などの上屋を道路高欄から上にはみ出さないようにし、維持管理にも考慮しつつ、景観に配慮した設計としています。



他ダム事例

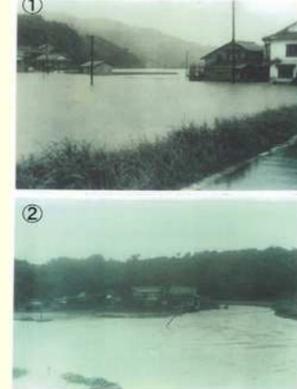


波積ダム

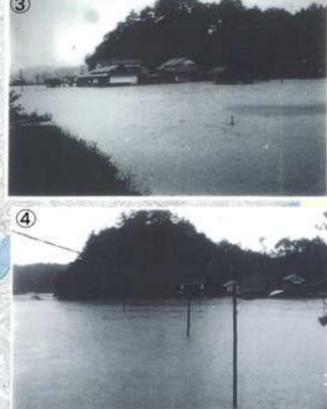
都治川における出水の記録



昭和46年7月

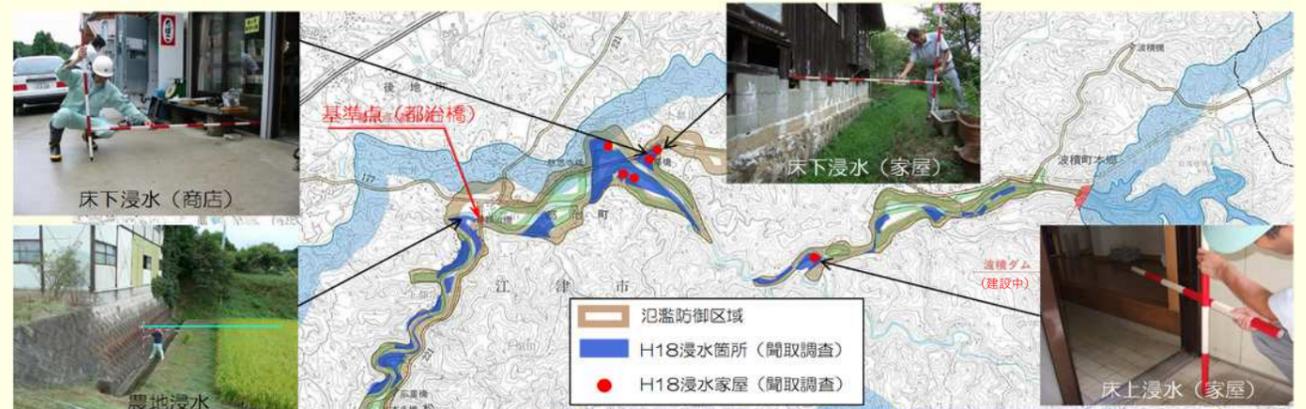


昭和47年7月



洪水発生年月	原因	主な被害
昭和46年7月 (180mm/24h) (56mm/h)	梅雨前線豪雨	浸水家屋102戸 全半壊19戸
昭和47年7月 (237.5mm/24h) (33.5mm/h)	梅雨前線豪雨	農地浸水272ha 宅地その他浸水22ha 床下浸水1,021戸 床上浸水1,845戸 全壊157戸等 ※江の川本川含む

昭和46年洪水、昭和47年洪水の状況



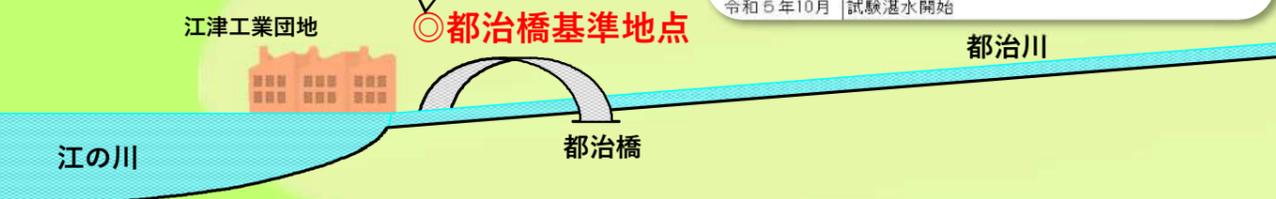
洪水発生年月	原因	主な被害
平成18年7月 (182mm/24h) (48mm/h)	梅雨前線豪雨	床下浸水家屋：5戸 床上浸水家屋：1戸 宅地浸水：0.7ha 農地浸水：29.6ha

平成18年洪水の状況

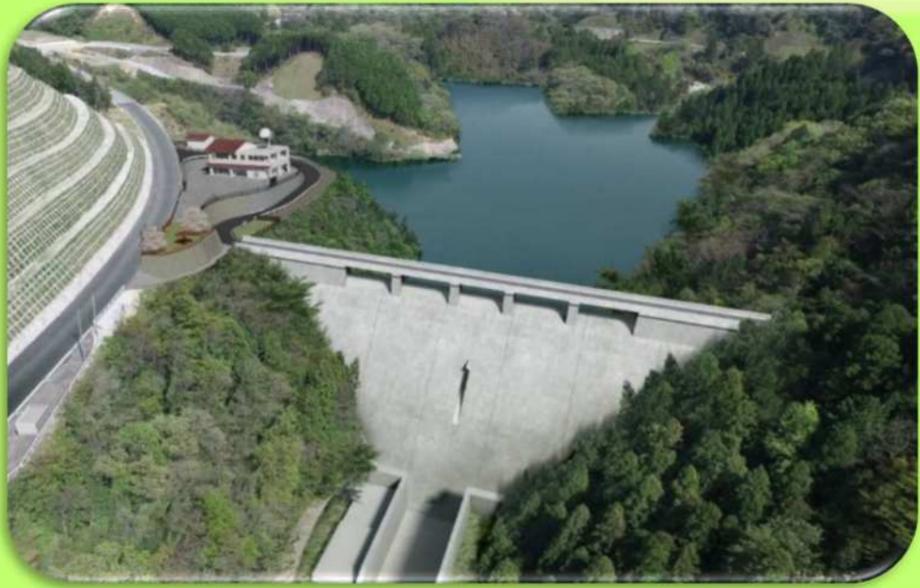
都治川 治水ダム建設事業 波積ダム



昭和43年度	予備調査
昭和47年度	梅雨前線による洪水により、大きな被害を受ける
昭和46年度	
昭和48年度～平成5年度	実施計画調査
平成6年4月	建設事業に着手
平成10年2月	地元協議会と基本協定を締結
平成16年2月	損失補償基準協定を締結
平成21年12月	ダム検証により事業を凍結
平成25年7月	ダム検証「事業の継続」決定
平成30年3月	転流工着手
平成30年12月	ダム本体建設本契約
令和元年5月	1次転流
令和元年6月	ダム本体起工式
令和2年10月	初打設式
令和3年3月	ダム本体定礎式
令和4年9月	最終打設式
令和5年5月	2次転流
令和5年10月	試験湛水開始



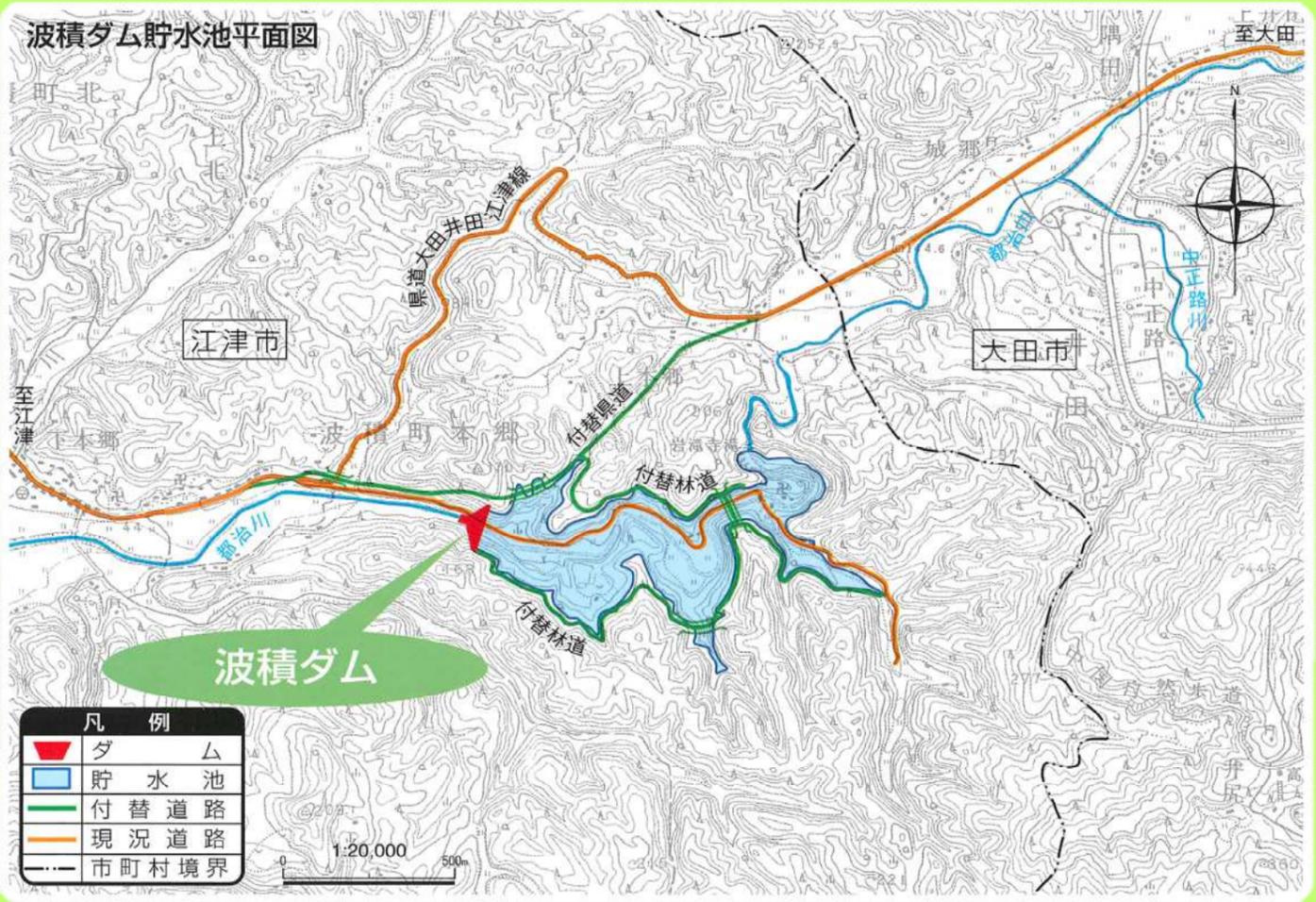
計画規模：1/50
計画雨量：235mm/24hr (S47.07.11)
53mm/hr、85mm/2hr



ダムの目的

洪水調節
昭和47年7月相当の概ね50年に1回の確率で発生する降雨による都治川沿川地域の浸水被害を防ぐため、ダム地点において、90m³/sの洪水調節を行います。

流水の正常な機能の維持
概ね10年に1回の確率で発生する渇水時において、流水の占用、流水の清潔の保持、動植物の生息地または生息地の状況、既得取水の安定化を図ります。



波積ダム

河川名	江の川水系(一級)都治川
型式	重力式コンクリート
流域面積	13.5Km²
湛水面積	0.237Km²
ダムの高さ	48.2m
ダムの長さ	126.0m
ダムの体積	67,280m³ (減勢工含む)

放流設備	常用洪水吐	オリフィスによる自然調節 幅1.3m×高さ1.3m×1門
	非常用洪水吐	クレスト自由越流 幅10.0m×高さ2.5m×1門 幅11.5m×高さ2.5m×4門
	低水放流管	口径800mm 1条
洪水調節方法		自然調節